

子どもたちはこの∞の字を楽しみながら毎日、繰り返し走り続けています。初めてふじおか幼稚園の園舎を見学に来てくださった方は、こうした不思議な世界観に驚かれるケースもありませんが、どこか、懐かしさや親しみやすさも感じていただく方が多くいらっしゃいます。

昔ながらの私たちが行ってきた教育を大切にしたいという想いを感じとっていただいているのではないかと勝手に思っています。

園庭は、芝の庭と土の庭に分かれています。そして、園庭には目立った遊具はありません。保護者の方にも「なぜ遊具が少ないのですか」と聞かれることがあります。その際、園庭にはあえて遊具を少なくしていることをお伝えしています。

これからの子どもたちにとって大切なのは、人と人との関わりだと信じています。芝の庭では、ドッチボールやサッカー、鬼ごっこなど、団体で行う遊び活動をメインに、コミュニケーションを取りながら先生たちと意思をすり合わせる遊びをします。

一方、土の庭では、子どもたちはどこをほじくっても怒られず、水を流して川を作ったり、山を作ったり、穴を掘ったり、友だち同士、集中してじっくり遊ぶことのできる空間となっています。そこでも先生が混じり合い、さまざまな遊びが生まれるのです。



土の庭でのコミュニケーション

帰る頃には服も靴も泥だらけになってしまったため、保護者にとっては負担も増えますが、子どもたちにとっては、とても大切な経験です。

もちろん、遊具があっても同じ環境は作れると思うのですが、遊具対子どもではなく、子ども対子どもの関係をより大切にしたい、そこから学ぶ人間関係を大切にしていきたいという想いが込められています。

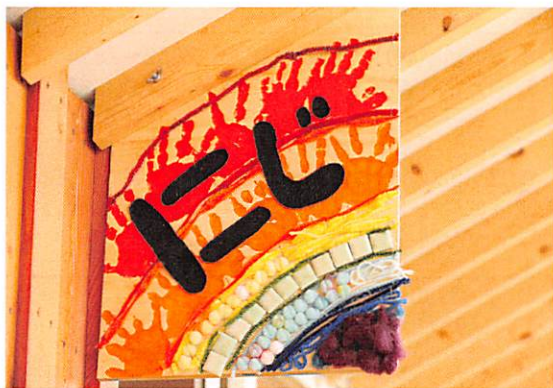
幼い子ども同士が一緒に遊んでいけば、楽しいこともあれば、友だち同士のトラブルもたくさん起きます。土にまみれることもそうですが、あえて「面倒なこと」、「泥臭いこと」が毎日生まれる園庭であってほしいと、強く願っています。それが、子どもたちの「立

ち上がるチカラ」を育ててくれるのだと私たちは信じています。ここでは紹介できませんが、そういった想いを、いたるところで垣間見ることができま

す。

例えばクラス表示の看板です。これも既存のものを購入せず、毎年、子どもたちが自分のクラスの表示を好きなようにデザインします。毎年準備は大変ですが…。

こうした活動を通し、もの大切さ、新しいクラスへの愛着が育ってくれたら大成功という気持ちで続けています。



園児の手作り看板

昔からの想いを大切にすることで、温かい雰囲気包まれています。

それは、私たちが、「歴史」、「想い」を大切にし、そこで「何を起こすのか」ということに常に立ち返るよう、意識しているからだと思っています。

原点に立ち返ることは、私たちの幼児への接し方、保護者への関わり方、教職員としての在り方など、さまざまなことに対しての考え方を整理する良い機会となりました。

この考え方を基に、幼稚園を運営していくことを、日々先生たちと楽しく話し合っています。そうすることで、「想い」を共有することにも繋がっているように感じます。

新しいことへの取り組みの際にも、なぜ、それが必要なのかを「原点」大切にしていること」を基に、保護者や教職員に伝えていきます。

そうすることで、少しずつですが、同じ気持ちで協力してくれる仲間が増えてきたように感じます。

私たちは、これからもこの「原点」に立ち返ることで新たなものが生まれる「楽しさを、保護者、教職員、子どもたちと一緒に作っていきたいと考えています。

◆◆寄稿者紹介◆◆
市村弘貴（いちむら ひろき）

平成26年4月から園長就任